

〈連載〉 聖潔の流れに立つ 第十二回

山室軍平の聖潔

中将 朝野 洋



六、山室の宗教を受け継いだ人々―山室による聖潔の流れ―

○大酒家から忠実な救世軍人へ……大原伴吉特務曹長(京都小隊)

大原特務は、一九六八(昭和四十三)年に紫綬褒章を受章。その後、次のような証言をしている。

「私は、大正七年の暮れ、当時の救世軍大佐・山室軍平先生の禁酒講演を拝聴して耳新しく感じたことが二つあった。その一つは飲酒は神の前に罪悪であること。もう一つはいかなる大酒家でもキリストを信仰するならば断然禁酒ができるということであった。私は、自分が働いて得た金でも飲酒することがなぜ罪悪であるか、飲酒は個人の自由ではないか、救世軍はなぜ個人の自由まで干渉するのかわからなかった。

それで翌日、救世軍京都小隊を訪ねて受け持ち士官の森川大尉に面会し、飲酒がなぜ罪悪であるかを質問したのである。すると、森川大尉は聖書を取り出して懇切に神、罪、救いのことを説明してくださったので、自分の過去、現在の生活が神の前に罪であることを初めて知り、即座に罪を悔い改めてキリストを信じたのである。

救いを体験してみて、山室先生の講演は少しの偽りもないことを知ったのである。霊魂が生まれ変わってからは、一升くらい飲んだ酒が嫌いになっただけでな

く、悪事を憎み善事を楽しんで行おうと努めるようになり、また自分本位の生活から他の祝福を願う生活へと変化し、感謝と喜悅の日を送るようになったのである。そして、大正八年二月に救世軍兵士として入隊を許されたのであるが、年齢は満三十一歳で、当時は京都薬剤師会の首席理事であった。―中略―

救世軍は私の生涯に一大転機を与えた。かつては飲酒の結果、薬の調剤を誤り数人に迷惑をかけた大酒家を厳正禁酒家にし、拜金主義の人間を、喜んで社会福祉に貢献するよう変化させたのである。言いかえればキリストの宗教は、いかなるだらしのない人間でも、改造して受章にいたらしめることを身をもって体得したのである。私は救世軍で育てられ、今日に至ったことを感謝するものである。」(「神の国をめざして」②より)

■新型コロナウイルス感染症流行に伴う救世軍の緊急措置について(八月五日現在)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止のため、以下の軍国行事の変更及び中止が決定されています。

変更・感謝と賛美のコンサート(九月六日)及び召天者合同記念会(十月十日)は、公開集会はおこなわず、ライブストリーミングで配信予定。感謝祭募金は、訪問方式ではなく、郵送及び振替による方式を推奨する。

軍国インターンシップ第一期は、二〇二二年六月〜二〇二二年一月末の八カ月間とする。

中止・聖地旅行(十月末〜十一月開催予定)、各種キャンプ及びキャンペーン、こども伝道週間

なお、救世軍内の社会福祉及び医療施設では、感染拡大防止に最善の努力をして、通常どおりの働きをおこなっています。感染終息の兆しが見られない中にありますが、一日も早い事態収束のために祈りつつ、各自適切な行動に努めましょう。

■世界各地での支援活動

世界各国で深刻な新型コロナウイルス感染症の影響を受けている中、現在、世界六十五カ国で、救世軍による百十二のプロジェクトが進められています。



(写真上) タンザニアでの衛生用品による予防支援 (写真下) ソロモン諸島での支援物資配布風景



夏期訓練を前にして 『恵みを伝える者』の学年 夏期訓練任命集会より

難しい状況です。任地に行つてから、私たちに何ができるのか全くわかりません。だからこそ神様にすべてをお委ねしなければいけないことは明確で、あれこれ悩まず、シンプルに神様が示される道を歩んでいこうと思います。

そして、新型コロナウイルスの影響の中、祈りによって導かれた一つの御言葉がずっと私の心の中に留まっています。それは、マルコによる福音書四章二六、二七節です。

「神の国は、人が地に種を蒔くようなもので、夜は寝て、朝は起き、そうこうしているうちに、種は芽を出して育ちます。どのようにしてか、人は知りません。」(新改訳聖書)

私たちに、神の国がどのように成長するのか、また、その時のタイミングはわかりませんが、神様の領域のことなので知ることができません。しかし、種を蒔くことは私たちに託されています。

候補生になる前の私は、どのようにおこなえば、集いに人がたくさん集まるのか、という方法ばかりに目がいついていました。しかし、

候補生になってから、『ときのかえ』発射や野戦などを経験し、その中で働く大きな聖霊の力を感じました。その時、「この伝道方法は古い」と言つて、神様の力に制限をかけていたのは私自身だったのだと気づかされ、大きな神様の力の前で悔い改める時をもつことができました。

現在はSNSが発展し、様々な形での伝道ができる社会となりました。時間や場所なども気にせず、集会や聖書研究ができるようになったのはとても大きなこととです。しかし、この根本である「福音自体に大きな力がある」ということを忘れず、やり方はかに気を取られずに、どんな形でも福音の種を、夏期訓練中も蒔き続けていきたいです。

二年候補生になり、この数カ月間、神様から信仰に對する問いかけが多くありました。今のような困難と思われる状況の中で、また学びを通して、祈りの中で、何度もこう問われています。「わたしを信頼している

候補生 眞鍋 恵

か」。この問いかけによって、自分の信仰に向き合う時が与えられています。「すべて神様にお委ねします」と願いつつも、実際、目の前に困難な問題があらわれた時、自分の知恵と力に頼つてしまふ傲慢さがある、また「こんな状況になるなんて」「なぜ自分が」という自己憐憫、様々な醜い思いがあることを知らされいます。そのような状態のときは聖書の御言葉を自分の知恵で考えて読んでしまい、神の御力を制限していることに気づかれました。今、その不信仰さにつながる人間的な思いを十字架につけて取り去っていただきたいと聖霊の働きを求めています。



(写真上) 福山小隊での日曜学校 (写真下) 福山小隊の周囲でマスク付きのトラクト配布

今こそイエス様の御名に拠り頼み、聖霊の助けを求め、神様を信頼する信仰が必要だということをしっかりと教えられています。

「イスラエルよ、聞け。あなたたちは、今日、敵との戦いに臨む。心ひるむな。恐れるな。慌てるな。彼らの前にうろたえるな。あなたたちの神、主が共に進み、敵と戦つて勝利を賜るからである。」(申命記20・3、4)

この御言葉は、士官としての献身に、自分が不十分な者であると感じていたときに与えられました。この御言葉の力強さに感動を覚え、この御言葉によって献

身の歩みを保証していただくように感じます。

最近、また力強くこの御言葉が心に迫ってきます。私を失望させ、信仰をなくさせようとする誘惑はたくさんあります。しかし、神様に主権を明け渡し、いつも神様の側に立つなら、神様が私のために戦つてくださる。それは圧倒的な勝利をもたらししてくださいませ。神様が用意してくださっている祝福を信仰によって勝ち取ることができるように願っています。

この夏、神様の御計画に期待して、夏期訓練に臨みたいと思います。

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

泉尾小隊

●新会館起工式

4月25日(土)、午後1時30分より、新型コロナウイルス感染拡大防止策下のため、予定されていたプログラムを大幅に縮小しておこないません。司式者 西日本連隊長鈴木智博大尉は、「神が建ててくださる」(詩編127・1)と題して、メッセージを語りました。

鍬入式では、株式会社アーバントーク監査役の楠本行彦様、合資会社タカヤス建築工房代表の高安和夫様、小隊長三澤直規少佐、司式者が鍬を入れ、聖書を土台に据えました。最後に楠本様、高安様よりご挨拶をいただき、閉会しました。(参加者9人)

新しく建設される神の宮が、大いに用いられ、祝福されますよう、引き続き、お祈りを願います。



写真上左より
新会館完成予想図
鍬入式では、聖書を土台に据えた
起工式に集った方々
工事の様子(7月現在)



佐野保育園

●ドミノピザ様からおいしいプレゼント

5月19日(火)、ドミノピザ佐野茂呂山店様から、保育園児と佐野こどもクラブの小学生、そして職員の分まで、ピザを無料提供していただきました。

これは、新型コロナウイルス感染症の影響下にある子どもたちを心配してくださったドミノピザ様から、「こんな状況なので、私たちに何かお手伝いできることはありますか?」と1本の電話をいただいたことがきっかけでした。

当日、カート2台分もの量のピザが届き、みんな驚きを隠せませんでした。早速、その日のおやつにいただき、子どもたちは、にこにこしながら食べていました。小学生は、「もっと食べたい」とおかわりの回数も増えていたので、「夕ご飯もあるからお腹と相談してね」と伝えると、「まだ食べられる?」「うん」と自分のお腹と会話をしている男児もいました。

食後には、みんなでドミノピザ様にメッセージを書きました。お礼の言葉はもちろん、ピザの絵を描いたり、特においしかった味の感想を書いたり、一人ひとりの子どもたちからの素直な気持ちが集まりました。

その後、久富直樹園長と代表の子どもたちで、出来上がったお礼の作品をドミノピザ様にお届けし、直接スタッフにお礼を言うこともできました。

誰も予想しなかった新型ウイルスによる影響下において、心温まる優しいお心遣いに、心から感謝しました。



佐野小隊

●6月28日(日)のCCMサンデーを覚え、6月18日(木)、救世軍の医療部に裁断した綿布を届けました。小隊では、昨年11月から、救世軍の医療部や社会福祉施設で使用する綿布のために、と有志が綿布を裁断して持ち寄っています。今回は、機械で裁断して届けてくださる方もあり、たくさん集まりました。病院や施設はボランティアの受け入れが難しい、とのことで喜ばれました。

集会 報告

『恵みを伝える者』の学年 夏期訓練任命集会

6月12日(金)午後2時 士官学校講堂

(仮称)元麻布プロジェクト新築工事 起工式

4月7日(火)午後2時30分 麻布小隊跡地



学年旗を掲げる眞鍋嗣道候補生と敬礼する恵候補生

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、夏期訓練任命集会を、予定を変更して士官学校にておこないません。同時にライブストリーミング配信もなされました。

集会は勝笠隆大尉(士官学校)の司会により進められ、眞鍋嗣道候補生(写真左下)、眞鍋恵候補生によるそれぞれの証言(前ページに掲載)と両候補生による賛美がありました。賛美の間には、リエン・ラボシエール特務曹長(青少年部)が、賛美に合わせたイメージを絵にする様子が見られました(写真右下)。

その後、司令官ケネス・メイナード大佐は、両候補生を夏期訓練のため、福山小隊及び岡山小隊に任命しました。司令官は、ルカによる福音書24章45～49節の大宣



(仮称)元麻布プロジェクト新築工事起工式が、軍国女性部会長シェリル・メイナード大佐の司式によって、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、少人数で執りおこなわれました。財務管理部長寺澤勇少佐の司会によって進められ、司令官ケネス・メイナード大佐の祈祷、司会者の聖書朗読の後、司式者は、式辞及びメッセージ「未完の最高傑作」(ペトロ4・10～11)を語りました。

鍬入式を財産部長ナイジェル・ラスコム少佐が導き、設計・施工の積水ハウス株式会社 東日本建築事業本部技術部長 村本英一郎様、合同施主の廣瀬不動産株式会



教命令の箇所から「あなたがたは証人となる」と題して会衆にチャレンジを与えるメッセージを語りました。

メッセージの後、会衆は聖霊に応答し、恵の座にひざまずき祈りを献げました。

約2カ月間の訓練を受ける候補生と、共に過ごす子どもたち、派遣される福山小隊、岡山小隊のために祈り、動画で参加した方々と共に、恵みを分かち合う時となりました。また席上、司令官は、書記長官西村保大佐補に25年の士官永年勤続章を授与しました。(会衆17人、恵の座5人、動画視聴回数416回<8月1日現在>士官学校報)

社 代表取締役社長 廣瀬慶太郎様、司令官が鍬入れしました。司式者による祝祷後、廣瀬様、村本様よりご挨拶をいただきました。廣瀬様は、救世軍本営をはじめとして、先代からの救世軍との協働について、お父様と救世軍の出合いにさかのぼってお話してくださいました。この建物の1階は救世軍の「麻布十番コミュニティ施設(仮称)」とし、2～4階はマンションです。1階部分での活動は、伝道事業部及び軍国青少年部によって、すべての人に開かれた場所を提供することをめざして、計画を進めています。



コロナ禍での支援

岡山小隊

●マスク支援

4月27日(月)、就労移行支援事業(通所作業所・岡山市)を運営するNPO法人ステップハウス「わ」様にマスク25枚をお届けし、マスク不足の中だったので、大変喜ばれました。また、特定非営利活動法人 岡山・ホームレス支援「きずな」様に、メロンパン、クッキー、お茶、手づくりマスク、『ときのかえ』30セットを届けました。これらを「きずな」様提供のお弁当にプラスして、街頭生活者に手渡ししていただきました。その他、救世軍の児童養護施設や、小隊の地元 表町商店街での配布、整骨院の受付に置いていただくなど、合計約300枚を配布しました。



手作りマスクをお配りしています。
〈折りを入れて〉
どうぞこの感染拡大が1日も早く終息しますように。
この先にある希望を信じて祈ります。

【お願い】
布マスクですので、ウイルスの侵入を防ぐというより
ご自身の咳やくしゃみの飛び散ることを防ぐ意味
での効果を目的として着用をお勧めします。ご使用
になる前には洗濯してからお使いください。繰り返し
ご使用の際は、毎日洗ってください。
〒7000822
岡山市北区表町3-12-26 救世軍岡山小隊

関東東北連隊

●マスク支援

5月7日(木)、社会福祉法人希望館(高崎市・児童養護施設、高齢者介護施設を運営)に、マスクを1,000枚届けました。3~6月末まで、諸集会及び面会を休止し、職員は、医療・介護物資不足の中、手づくりのマスク等での対応をしていました。連隊長藤井健次大佐補、連隊女性部書記藤井千明大佐補、高崎小隊長細貝信義大尉及び細貝のぶ江大尉の4人で訪問し、法人理事長の松澤斉様及び松澤紀子様へマスクを贈呈しました。

社会福祉法人潤青会(藤岡市・特別養護老人ホーム「真ほろば」を運営)は、救世軍の良き理解者です。200枚のマスクを高崎小隊長夫妻で届けました。受け取られた職員の方々は、みなさん手づくりマスクで対応されており、少ない枚数にもかかわらず、大変喜んでくださいました。

5月8日(金)、長野分隊の社会鍋資金より、通所介護事業所「山陽介護サービスセンター」(長野市・施設長山岸益子様)の約40人のスタッフに、マスクとアクリルタワシを送りました。この施設は、今年の台風19号で水害を受けた豊野町から移転し、新たなスタートを切りました。新型コロナウイルス感染症の影響の中にあっても、高齢者の方々に訪問しています。

5月14日(木)、医療法人秋山会「両毛病院」を訪問



写真位置
①②③
④⑤
⑥⑦
⑧
⑨
①「わ」様
②マスクを安心して使
っていただけるよう個
装して
③添えられたカード
④希望館法人本部にて
⑤「真ほろば」にて
⑥⑦⑧「山陽介護サー
ビスセンター」にて
⑨「両毛病院」にて

し、石橋和俊事務部長様に、マスク500枚を届けました。連隊長及び連隊女性部書記、佐野保育園の久富直樹施設長の3人で訪問しました。この病院は、毎年受付にミニ社会鍋を設置して、募金に協力して下さっています(現在は、コロナの感染予防のため休止中)。

海外士官の帰国

6月12日(金)、ナイジェル及びブレンダ・ラスコム少佐夫妻(写真左)は、ニュージーランドへ帰国されました。ナイジェル少佐は、ニュージーランド、フィジー、トンガ及びサモア軍国 軍国財務部 軍国監査及び危機管理担当、ブレンダ少佐は、同中央連隊連隊長の任命を受けられました(8月1日付)。ジェネシス及びマーサ・アプワン大尉夫妻は、米国西部軍国インターマウンテン連隊フォートコリンズ小



隊(コロラド州)小隊長の任命を受けられました(8月12日付)。新任命の上に神様の祝福をお祈りいたします。

NEWS!!

各地のニュース!!

東京東海道連隊

●こども給食

学校給食が停止していた期間の5月上旬~6月4日、毎週火・木曜日に「こども給食」をおこないました(詳細は『ときのかえ』〈7月1日発行〉に既載)。保護者からは、「『こども給食』のおかげで、お弁当づくりをしなくてよい日ができることは、働くママとしては本当に助かっています。子どもにとっては、温かいものを食べられるだけでなく、外に出て教会の方と言葉を交わせることは、今の時期にとっても貴重なことだと感じました。そして、子どもだけじゃなく、私自身も救われています。本当にありがとうございました」と、言葉をいただきました。

●学生支援

6月23日(火)、24日(水)、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた困窮者支援の一環で、学生への食品の無料提供をおこないました。200個の食品セット(米、味噌、レトルト食品等)は、新型コロナウイルスの影響を受けた那須の農家より取り寄せられました。食材準備のために、那須の「Chus」様に協力していただきました。支援には、千代田区社会福祉協議会や地元 神田すずらん通り商店街様の協力をいただきました。リモート授業中の学生、生活保護家庭や、施設より自立した方々、難民支援協会や留学生など、経済的な支援が必要な方々に提供することができました。



写真左上より
●こども給食
・折々に奉仕者が与えられた
・テレビ取材を受ける子ども
・パンを準備して下さった、「バギアベーカー」店主(中央)と

●学生支援
・神保町で福祉活動をしている方々と連携
・授業の合間に受け取りに来た地元大学生
・支援した食品

西日本連隊

●連隊女性部メッセージボードを作成しました!

毎年、6月に開催されていた連隊女性部ラリーが、今年は、新型コロナウイルスの影響で中止になりました。計画では、久しぶりに、関門海峡を挟んだ下関と門司地区でおこなうことになっていましたが、実現できませんでした。しかし、連隊内から、実際に集まることができなくても、紙上で交流できないか、という声があがりました。そこで、各小隊から、みなさんのメッセージをハガキに書いて送ってもらい、それを小冊子にまとめることにしました。名付けて『2020西日本連隊女性部ラリーメッセージボード』! 連隊内13小隊から、55人(組)が参加しました。7月中旬、手書きあり、絵手紙あり、皆さんの思いの詰まった、カラフルな、素敵な小冊子が完成。「すてきなメッセージボードができましたね。感動!」「明るく心の温かいそれぞれのメッセージが美しく編集されていました。」「それぞれチャレンジのあるなかにも、主を見上げて歩いておられる様子がよく伝わってきました」……と喜びの反応が届いています。



女性部

万国本営女性部は、SNS運用を始め、FacebookとInstagramアカウントで世界中の女性たちの証言を顔写真と共に掲載しています。5月29日(金)には、石川節子少佐(東京東海道連隊女性部書記)が掲載されました(英語)。

